

聖徳太子ゆかりのスポット

C-1 四天王寺 (四天王寺 1丁目)

推古天皇元年(593)日本仏教最初の官寺として聖徳太子により建立された寺院が四天王寺である。場所については「日本書紀」と上宮聖徳太子伝補記では相異があり、前者は荒陵(あらはか)の地、つまり現在地と伝え、後者は最初五輪(中央区)に創建され「推古天皇元年に荒陵に移る」という旨の記載がある。しかし決着は出ていない。因みに現在の四天王寺は山号を荒陵山といい、何れの宗派にも属しない単立寺院で和宗を奉じる。伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」と呼ばれる独特なもので日本最古の建築様式のひとつである。

C-1 四天王寺(聖霊堂(しやうりやういん)) (四天王寺 1丁目)

聖徳太子をお祀りしている太子殿と太子奥殿を「聖霊堂」といい、太子殿には南無仏二像と聖徳太子孝養像(秘仏)、奥殿には聖徳太子撰政像(秘仏)が祀られている。

C-1 四天王寺(石鳥居(いしのとりい)) (重要文化財) (四天王寺 1丁目)

永仁2年(1294)に急性(にんしやう)により石造りに改修された大鳥居である。中央の扁額には「釈迦如来転法輪處、当處崇土東門中心」と書かれているが、この門は中世浄土思想の影響で西方浄土の東門であると考へられ、ここを彼岸に夕陽を拝し極楽浄土を想うという「日想観(じつそうかん)」の修行が見られたとされている。現在では、春秋の彼岸の中日には、太陽がこの鳥居の中心をとって沈むのを見ることができている。

C-1 四天王寺(亀井堂(かめいどう)) (四天王寺 1丁目)

亀井堂は戦火で焼失後、昭和30年(1955)に再建された。亀井堂の雲水は、金堂の地下より湧き出す白玉出の水で、回向(供養)を済ませた終末を流せば極楽往生が叶うといわれている。東西両行は、四間あり、西側を亀井の間と呼んでいる。東側は影向の間と呼ばれ、左右に馬頭観音と地藏菩薩がある。中央には、その首聖徳太子が井戸に姿を映し、櫓柱で自画像を描いたという櫓柱の彫影が安置されている。

C-1 四天王寺(五重塔) (四天王寺 1丁目)

現在のものは昭和34年(1959)の再建であり、8層目であるという。塔の総長39.2m、相輪の長さが12.3mもある。相輪の長さが塔全体の約3分の1に達するのが特徴で、塔の最上層部には舍利が奉安されている。

C-1 四天王寺(金堂) (四天王寺 1丁目)

五重塔、講堂とともに昭和36年(1961)に再建された。内部はエンタスの柱間14面に総延長50mにも及ぶ釈迦の一代を描いた中村岳庵画伯の筆による壮麗な壁画が描かれている。四天王寺が所蔵する国宝、重要文化財は二百数十点にも及び、その他にも絵画、彫刻、美術品など貴重なものを多く所蔵する。年中行事も長い歴史を有する寺院にふさわしく多彩な行事が行われる。



四天王寺

C-1 四天王寺庚申堂(こうしんどう) (堀越町)

大宝(たいほう)元年(701)正月7日庚申の日に、青面金剛聖(しょうめんこんこうしん)がここに出現し、当時大流行の疫病を治すために。それでここが庚申信仰発祥地といわれ、三猿信仰や庚申の日に北向きで「こんにやく」を食べなどの風習を生んだ。東側の道は庚申街道と呼ばれ、平野区長吉あたりまで続いている。

C-1 四天王寺(繪堂) (四天王寺 1丁目)

聖霊院の一角にある聖徳太子の一生を描いた絵巻を納める絵堂。杉本龍吉画伯が昭和52年(1977)の着手から6年かけて描きあげられた壁画があり、毎月22日に一般公開されている。

C-1 四天王寺七寶 (四天王寺 1丁目)

聖徳太子は、四天王寺を創建した際に併せて、四天王寺の外護として七つの神社を建立したとされる。これらの神社は四天王寺七宝といわれ、久保神社・大江神社・河堀稲生神社・堀越神社・小僧神社・土塔神社・土塔神社を指す。

C-1 河堀稲生神社(こほりいなりじんじや) (堀の跡) (大宮3丁目)

景行天皇が稲生を祀ったのが始まりといわれ、後に聖徳太子が本殿を造営し、叔父の崩壊天皇と併祀した。789年和氣清麻呂が稲生の振興と水害の防止を目的に、摂津と河内の国境に河川を開いて西方の地に流し込む大規模な大工事を行って、工事の安全を祈願した。この工事を境に付近一帯の地名表記は古保(こほり)から河堀と改まった。茶臼山の河底地はその名残と言われ、「和氣橋」という橋が架かっている。

C-1 久保神社(くほじんじや) (勝山2丁目)

四天王寺七宝の一つで、四天王寺建立の際に聖徳太子が創建した。昔、この辺りが窪地だったのでこの社名になったといわれている。境内社の願成院は、聖徳太子が四天王寺建立の際にかけたことから、現在も願掛けが多い。

C-1 堀越神社(ほりこしじんじや) (茶臼山町)

聖徳太子により、風光明媚な茶臼山の地に、四天王寺建立と同時に四天王寺七宝のひとつとして創建された。明治中期まで、南沼に美しい堀があり、この堀を越えて参詣したのに、堀越という名が付けられたといわれる。八軒家浜近くの無野稲生道の第一王子「窪津王子」は堀越神社に祀られ「無野第一王子宮」として現在に至る。

C-1 大江神社(おおえじんじや) (夕陽丘町)

四天王寺七宝の一つで乾の社として昆沙門天を本尊にしていたが、明治維新の神仏分離によって今は豊受大神を祀っている。境内には芭蕉、千手、三洋人、晩白の句を刻んだ四吟碑がある。境内奥には泊大なるぬめりも鎮座する。明治40年(1907)に、四天王寺七宝のうち土塔神社、小僧神社、土塔神社の祭神が合祀された。

C-1 小僧宮(おさのみやあと) (勝山2丁目)

江戸時代に発見した天王寺村のひとつである小僧村の鎮守小僧神社の跡地で、祭神は素戔鳴尊を祀っていたが、明治期に大江神社に合祀された現在は石碑のみが残っている。



B-2 上之宮址(うえのみやあと) (上之宮町)

上之宮神社として聖徳太子の祖父である欽明天皇を御祭神として祀っていたが、明治期に大江神社に合祀された石碑のみが残っている。

C-1 愛染堂勝聖院(あいぜんどうしょうまんいん) (夕陽丘町)

聖徳太子が勝聖院(しょうまんきやう)を講読したところであると伝えられる。本尊に愛染明王を安置するための別名を「愛染堂」ともいわれる。本堂は元和4年(1618)に再建されたもので、大坂府有形文化財に指定されており、多宝塔は文禄(ぶんろく)3年(1594)豊臣秀吉の建立といわれる。多宝塔は大阪市内最古の本堂建築であり、重要文化財に指定されている。

C-1 真光院(しんこういん) (夕陽丘町)

594年聖徳太子により創建で、父・用明天皇の供養の際に阿弥陀如来が西北の方角に來遊されたことから、四天王寺の西北におきかて建立された。この地には太子が穴万体の地蔵尊を造り祀ったという伝承があり、「穴万体地蔵尊安置の寺」として有名な寺である。

C-1 超願寺(ちやうがんじ) (竹本義太夫墓所)(大阪市顕彰史跡) (大宮1丁目)

推古22年(614)、聖徳太子の父である用明天皇の冥福を祈るために小堂を構えたのが始まりとされる。翌年、蘇我馬子の子慧観(えかん)が住職となり超願寺と改められた。境内には人形浄瑠璃の黄金期を築いた竹本義太夫の墓所がある。四天王寺七宝の一つ土塔神社があったとされる。

C-1 清水寺(きよみずで) (玉出の滝) (伶人町)

寛永17年(1640)、延海阿闍梨によって、京都の清水寺を模して高台に建立された。本尊として、京都の清水寺から、聖徳太子といわれる千手観音を譲り受けたため「新清水寺」と呼ばれる。境内には、大阪市内で唯一の天然湧きとされる「玉出の滝」、西側の崖に「清水寺舞台」がある。

C-1 統国寺(とうこくじ) (ベルリンの壁)(広瀬旭荘墓所)(大阪市顕彰史跡) (茶臼山町)

百済僧頼助(602年来日)を招き、新道三尊を本尊とする百済古念仏寺として始まった。聖徳太子が創建したといわれる。1615年大坂夏の陣で焼失したが、1689年法源和尚により再建された後、黄泉宗福徳寺と改められた。1969年日本朝鮮仏教徒協会会長の傘下に入り統国寺として再興され現在に至る。境内には朝鮮半島統一を願う金剛大菩薩3.6mのベルリンの壁を模して置かれている。また、江戸時代後期の儒学者・詩人である広瀬旭荘(ひろせきさう)の墓所がある。



天王寺区

A-2 鶴森宮(かさざきもりのみや) (中央区森ノ宮中央1丁目)

約1400年前、聖徳太子が物部守屋の討伐の際に際し、勝った戦いは四天王寺を築くことを誓い、玉造稲荷神社に必勝を祈願した。戦いに勝利した太子は、物部守屋の領地であったここに寺を建て、その鎮守のため、父母の用明(よるめい)天皇と穴穂部間人(あなほべのひと)皇子を祀り、四天王寺を造った。一説によると、この地に四天王寺を創建し、のちに現在の天王寺へ移転したといわれる。

各スポット名の前にある記号(C-1等)は、表面地図右下にあるエリア分けの記号と合致しています。この記号から地図上の位置を探してみてください。



天王寺区マスコットキャラクター ももんちゃん

天王寺七坂スポット

B-2 坂-1. 真言坂(しんごんざか) (生玉町)

生玉神社にあり、天王寺七坂のうち唯一南北に通る坂である。真言宗の生玉十坊と呼ばれる、10のお寺が周辺にあったことから、生玉真言坂とも呼ばれる。

B-2 坂-2. 聖聖寺坂(しょうじやうざか) (下寺町1丁目)

狭い石畳の緩やかな坂道で、坂の上り口にある聖聖寺の境内をけずって東西に抜ける道にしたことからこう呼ばれる。織田作之助の「夫婦善哉」の舞台にもなった。

B-2 坂-3. 口蔵坂(くちわざか) (夕陽丘町)

下から見ると蛇(くちな)のように見えるところから坂の名がつけられた。一説には大坂城築城の際の測量起点(堀打口)であったからだとする。

C-1 坂-4. 愛染坂(あいぜんざか) (夕陽丘町)

大江神社南側の坂道で、坂の下り口にある愛染堂勝聖院(愛染堂)に参る道であることから名づけられた。

C-1 坂-5. 清水坂(きよみずざか) (伶人町)

清水寺に上る坂道であるところからこう呼ばれる。

C-1 坂-6. 天神坂(てんじんざか) (伶人町)

菅原道真をまつる安福神社(天神)に通じるところからこの名がつけられた。

C-1 坂-7. 蓮坂(うさざか) (逢坂1丁目)

松屋町筋終点、いわゆる合法ヶ辻から四天王寺西門に至る坂道である。蓮坂は、蓮坂の間にそそぐて呼んだものと、他説では聖徳太子と物部守屋の2人が値じうの方法を比べたといわれる「合法四会」に近いことにより合坂と名付けられたなどの諸説がある。



口蔵坂

B-2 心光寺(しんこうじ) (下寺町1丁目)

タジマハルを小さくしようと思ふ本堂がある。

B-2 法界寺(ほうかいじ) (下寺町1丁目)

門を入ったところに洞(ほら)がある。「安産地蔵」(別名・住吉の誕生地蔵)。このお地蔵さんは産後がよい、多くの方がお参りに訪れるという。

B-2 大光寺(だいこうじ) (下寺町2丁目)

文禄元年(1592)開基。昭和15年(1940)に通った学園坂は元はこの寺の敷地であった。坂沿いの地蔵はるの時に移したもので、この地蔵は通称「まんじゅう食い地蔵」と呼ばれる。おまんじゅうを供えると言靈あらたかと言われる。

B-2 善福寺(ぜんぶくじ) (下寺町2丁目)

天正19年(1591)開基。戦災で罹災し鐘つ堂以外すべて焼失した。元は大光寺の隣にあったが昭和27年(1952)に現地に移動した。

B-2 宗慶寺(そうけいじ) (下寺町2丁目)

松竹斎新創で有名な渋谷天外(しじやてんがい)の初代と2代目の墓がある。以前には大相撲大坂場所の相部屋敷に使っていたことも。

B-2 善龍寺(ぜんりゅうじ) (下寺町2丁目)

慶長7年(1602)開創。戦災で山門を残し全焼した。元は松屋町筋沿いにあったが、昭和47年(1972)再建時に現地に移動。境内の桜と「海中出現地蔵尊」が有名。

B-2 称名寺(しょうめいじ) (下寺町2丁目)

寛永元年(1624)開基。戦災で山門を残して全焼した。「海中出現口観正観世音菩薩」があり、「口蔵坂」の口蔵の名はこの菩薩像からきているといわれている。

B-2 西照寺(さいしょうじ) (下寺町2丁目)

門を入ると左側に「十一面観世音菩薩」、右側に安政6年(1859)につくられた「仏足石(ぶつそくせき)」がある。仏足石はお釈迦様の足型をとったもので、これほど古いものはこの辺りになくといわれる。

B-2 正覚寺(しょうかくじ) (下寺町2丁目)

文禄元年(1592)開基。「月見して如來の月光三昧や」を残して去った俳人、松尾芭蕉の墓がある。また、江戸時代に飛騨樂を営んでいた日本通が建てた「家業興立地蔵(かぎやうおくだてじそう)」などがある。

C-1 奉念寺(こうねんじ) (下寺町2丁目)

慶長元年(1596)開基。門を入ったところに「平安地蔵尊」がある。また、手をあて念ずれば願いがかなうという現代仏教士、坂村真良の「念ずれば花ひらく」の霊碑がある。

C-1 西念寺(さいねんじ) (下寺町2丁目)

戦災で焼失し、蓮慶(りんけい)作といわれる「阿弥陀如来立像」だけが残っている。境内には昭和62年(1987)に玉造に移した「子授け地蔵」が祀られている。

C-1 良運院(りやういん) (下寺町2丁目)

開基は元和年間(1615~1624)、良運上人の開山。境内に入って正面には4mはあるかという「日限地蔵(ひぎりじそう)」が祀られている。その横に福を招くという豊川稲荷の「ダケ二天の社」がある。

C-1 円成院(えんじやういん) (通称:遊行寺(ゆうぎょうじ)) (下寺町2丁目)

竹本義、豊竹(よたけ)屋敷の没落のため、人形浄瑠璃も急激に衰退してしましたが、これを復興させたのが代々の村木文軒である。2代目文軒の時に定小僧で、人形浄瑠璃はその頃から「文楽軒の芝居」と呼ばれていたが、それが「文楽」と呼ばれるようになったのは、明治5年(1872)3代目文軒の時からである。また、ここには元禄7年(1694)に5歳で没した芭蕉の供養碑がある。

C-1 和空下寺町(わくうしたでまち) (下寺町2丁目)

お寺が集積している下寺町に平成29年(2017)にオープンした宿坊施設。宿坊は本々、僧侶や参拝者のための施設を指すが、「和空下寺町」では一般観光客の宿泊も受け入れ、障壁なき見学、写経、御朱印づくりなどの寺社文化体験ができる。



天王寺マスコット ツツアツアツ

歴史・戦国武将スポット

A-1 大坂城 (中央区大坂城)

秀吉は天下統一の拠点として権威と権力を象徴する難攻不落の巨城を築いた。豪壮華麗なその姿は「三国無双」と称された。慶長19年~20年(1614~1615)の大坂の陣で落城。現在は、昭和6年(1931)に大阪府民の熱意によって再建された鉄筋鉄骨コンクリート造り、地上55mの3代目天守閣である。

A-1 越中井(えちゅうい) (中央区森ノ宮中央2丁目)

この付近は細川越中守忠興(ただあき)の邸で、越中井はその邸内にあったものとされている。慶長5年(1600)関ヶ原の戦前、忠興が敵軍に従い上杉攻めに出席中、石田三成は在坂諸大名の妻子を人質にしよとしたが、忠興夫人玉子(流礼名ガラヤ)はこれに従わず、家臣に胸を突かせて37歳の生涯を閉じた。近くのカトリック教会には、ガラヤ夫人像とキリシタン大名の高山右近(たかやまうきん)像がある。

A-2 玉造稲荷神社(たまづくりいなりじんじや) (中央区玉造2丁目)

(豊臣秀頼(とよひで)の公儀像) 紀元前12年の秋に創建されたといわれる由緒ある神社。豊臣秀頼奉納の鳥羽や千利休の銅像群とともに並ぶ豊臣家ゆかりの神社でもある。境内には豊臣五三郎公儀像もあり、古式玉造や玉作工程、古代土器など貴重な資料が展示されている。平成23年(2011)には境内に豊臣秀頼公儀像が建立された。

B-3 三光神社(さんこうじんじや) (玉造本町)

明治41年(1908)に境内の三光寺を合併してより「三光神社」と呼ばれるようになった。慶長19年(1614)の大坂冬の陣の頃、真田幸村が大坂城まで進軍したといわれる「真田の坂」が残されている。また、境内には真田幸村公の銅像が建つ。

B-3 真田山公園 (真田山町)

昭和14年(1939)に騎兵隊第3連隊のあった跡に開設され、現在は天王寺スポーツセンターなどのスポーツ施設も整備されている。このあたりは大坂冬の陣に真田幸村が活躍した古戦場でもある。

B-3 心眼寺(しんがんじ) (まん直し地蔵) (御差町)

元和8年(1622)、白牟(はくむ)和尚が真田幸村父子の冥福を祈って建立した寺で、門前には真田家の家紋である六文銭が飾られている。境内には「まん直し地蔵」があり、26の恵みの地頭に祈願すると、幸運が訪れるといわれている。大坂冬の陣から400年の平成26年(2014)10月、境内に幸村公のお墓が建立された。



三光神社・真田山公園

寺町・夕陽丘スポット

B-2 生國魂神社(いくくにたまじんじや) (生玉町)

天正11年(1583)に豊臣秀吉が大坂城を築く地を石山崎と定めたが現在の地に移された。「生國魂造り」という様式のちがう破風を重ねた他に類別を見ない桃山時代の社殿様式を取り入れたものである。現在の建物は昭和31年(1956)に建てられたものである。境内には11の社があり、落語の祖といわれる米澤彦八の碑や井原西鶴、織田作之助像、松尾芭蕉句碑なども有る。

B-2 藤次寺(とうじ) (大坂の融通さん)(木通弘法大師坐像-大阪府有形文化財) (生玉町)

弘治年間(810~824)に在太師藤原冬経(ふゆつね)の発願により甥の任職上人が開創した藤原氏の氏寺。生玉十坊の一つであり、「大坂の融通さん」として親しまれている。木通弘法大師坐像(室町時代)は昭和59年(1984)に大阪府有形文化財に指定されている。

B-2 青蓮寺(しょうれんじ) (竹田出雲墓所)(大阪市顕彰史跡) (生玉町)

竹田出雲(1691~1756)は、竹本義太夫から竹本座の経営を引き受け、同座を繁栄へと導いた近松門左衛門と並ぶ浄瑠璃作家の巨匠で、菅原伝授手習鑑、義経千本桜、仮名手本忠臣蔵など数々の名作を残した。

B-2 銀山寺(ぎんざんじ) (お千代・半兵衛墓所) (生玉町)

近松門左衛門の「心中宵の庚申」の主人公、八百屋半兵衛と妻お千代の墓がある。

B-2 藤延寺(れいえんじ) (藤澤東照墓所) (生玉町)

元和9年(1623)に開創。境内には幕末に活躍した儒者の藤澤東照・南岳父子や、諸方虎庵、斎藤大と並ぶにわの3名臣のひとり、原孝柳の墓がある。

B-2 太平寺(たいへいじ) (十三まいりの寺) (夕陽丘町)

寛文3年(1663)加賀国大聖寺第21世祖山問越和尚が開山した曹洞宗の禅寺で、山号は蓮國山といわれる。幕末までは朝廷をはじめ加賀藩大蔵殿の菩提寺として「陣い庇護」のもとに隆盛を誇った。十三まいり、江戸の「七五三」に対し、大坂・京都で盛んなという行事であり、13歳になった子どもが、菩提の縁日である3月13日、4月13日に参詣する。別名を「智恵寺」ともいう。

B-2 伝藤原家隆(ふじわらいえかた)墓(大阪府指定史跡) (夕陽丘町)

藤原家隆(ふじわらいえかた)(1158~1237)は鎌倉時代初期の僧で、藤原定家と並び称される歌人である。「新古今和歌集」の編集にも携わった1人として参加している。この塚は享保(きやうほう)年間(1716~1735)の建立であるといわれるがその碑文は判読できない程風化してしまっている。また「夕陽丘」の地名は家隆の「契(あて)ありは難波の里に宿り来て波の入日を見まつるかな」という和歌によるものである。

B-2 織田作之助文学碑・大阪府立夕陽丘高等女子学校碑 (夕陽丘町)

口蔵坂の上に「木の郎」の一節が刻まれた織田作之助文学碑があり、坂の途中には大阪府立夕陽丘高等女子学校碑がある。

B-2 浄春寺(じやうしゅんじ) (麻田岡立墓所)(大阪市顕彰史跡) (夕陽丘町)

麻田岡立(1734~1799)はもと豊後築紫の医官で、明和8年(1771)来坂して医学・天文の分野に大きな業績をした。この地は藤原家隆(いえたか)が隠棲し庵を結んだ跡ともいわれる。また、ここには江戸末期の画家、田能村竹田の墓がある。

C-1 浮瀬亭跡(うきせいでいあと) (伶人町)

大阪星光学院内には、江戸時代、芭蕉や蕨村も來遊して句を残した料亭「浮瀬」があった。現在、その跡地は同校により「蕉風園」として整備。また、同校北側にある愛染坂の中ほどには、平成26年(2014)に「浮瀬園」が設置された。

C-1 増井の清水(ますいのしみず) (大阪市顕彰史跡) (伶人町)

上町台地の南部には良水の井戸が多い。これらを「造坂清水」といい、「天王寺七名水」ともいう。増井の清水もその一つである。天神坂の北側、興神寺と清水寺にはまじらぬ屋敷の一角に古びた井戸の屋形が残されている。

B-2 藤林寺(ほうりんじ) (上島見泉墓所)(大阪市顕彰史跡) (六万町)

上島見泉(うえしまみづ)は幼少時に佛僧の才能を発揮したといわれ8歳の時に僧侶になったが「来い来い」といって堂が荒れで行くことがあった。25歳の時に「まことの外に佛性なし」と悟ったといわれる。伊丹屋といわれる独自の佛僧を創りあげた。人柄は至孝、温厚、篤実で佛僧としての名声はもとより人格者としての名も高かったといわれる。

B-2 吉祥寺(きやうじやう) (赤穂義士墓所)(大阪市顕彰史跡) (六万町)

寛永7年(1630)創建の曹洞宗の禅寺で、山号は万松山という。当時の住僧が赤穂の出身で、特に渡辺長矩(あさのながのり)の帰依を受け浅野家の菩提寺として参勤交代の折には必ずこの寺院に立寄ったという。義士の墓は山門を入って境内の南西隅にあり、中央の五輪の塔が長堤公のもので、右側に大石内蔵助の墓、左側に大石主税の墓がある。更にその周囲を44士の戎名と行年を刻んだ玉垣が取り囲んでいる。境内には47士の石造も建てられている。

B-2 大運寺(だいにんじ)・應典院(おうてんいん) (吉芸人墓、天王寺高校開校の地碑) (下寺町1丁目)

天正19年(1590)足利家の大阪における祈願所として開基し、近畿の名刹であったといわれる。大運寺の塔頭(たちゅう)寺院「應典院」。円形の寺域があり、ここでは文化の中心として多彩なイベントが行われている。境内には、吉芸人墓・土塔神社の地碑がある。

B-2 称念寺(しょうねんじ) (下寺町1丁目)

慶長元年(1596)の開山。徳川時代初期に泉州岸和田の海中から発見された石仏が一面観音として尊像を集める。

B-2 浄國寺(じやうこくじ) (夕露太夫墓所) (下寺町1丁目)

遊女夕露太夫の墓である。夕露太夫は江戸の高尾、京の芳野、ならわの夕露といわれるほどの絶世の美女であったという。

B-2 蓮聖寺(れんじやうじ) (下寺町1丁目)

「庭火除(ひよけ)地蔵尊」が奉られている。なお、蓮聖寺坂の名称は、昔境内をけずって東西に抜ける道にしたことからこう呼ばれる。

B-2 金台寺(こんたいじ) (下寺町1丁目)

明暦2年(1646)に建立され、大阪市内最古の浄土宗寺院の本堂がある。

B-2 萬福寺(まんぶくじ) (新撰組地碑) (下寺町1丁目)

芭蕉句碑「尊かなみだりあめてちる紅葉」があり、「新撰組」の地碑であったことが知られる。

B-2 大覚寺(だいかくじ) (下寺町1丁目)

「千手観音菩薩」が安置され、大坂三十三所観音巡り27番目の場所である。

B-2 光明寺(こうみょうじ) (下寺町1丁目)

大阪野黒野の大岡同心などの息事なふすま絵・屏風などが現存する。